

明 細 書

発明の名称：巻筒体収納箱の蓋カバー及び巻筒体収納装置

技術分野

[0001] 本発明は、食品包装用のラップフィルムやアルミホイル、クッキングペーパーなどのフィルムが巻かれた巻筒体を収納する巻筒体収納箱の蓋カバー及び巻筒体収納装置に関する。

背景技術

[0002] 食品包装用のラップフィルムやアルミホイル、クッキングペーパーなどのフィルムは、筒状の巻筒体に巻かれた状態で、紙製の巻筒体収納箱に収納されて使用されている（特許文献１参照）。図１１に示すように巻筒体収納箱１００は、通常全体が直方体形状に形成され、上面が開口した直方体状の容器１０１と、当該容器１０１の開口上面を塞ぐ蓋１０２を有している。蓋１０２は、上面部１０３、前面部１０４、及び長手方向の両側の側面部１０５を有し、上面部１０３の後方端辺１０３ａが容器１０１に連結されている。蓋１０２は、後方端辺１０３ａを軸に回動し、容器１０１の開口上面を開閉できる。前面部１０４の下端部には、フィルムを切断する切断刃１０６が設けられている。

[0003] 巻筒体収納箱１００のフィルムを使用する際には、蓋１０２を開けて巻筒体１０７のフィルム１０８を必要量引き出し、蓋１０２を閉じ、フィルム１０８に張力をかけた状態で、前面部１０４の切断刃１０６によってフィルム１０８を所望の長さに切断する。

[0004] ところで、巻筒体１０７には、フィルム１０８が例えば５ｍ～５０ｍ程度巻かれているため、フィルム１０８を使い終わるまでに通常はフィルム１０８の切断が多数回行われる。このため、フィルム１０８の切断の度に荷重がかかる蓋１０２の前面部１０４や上面部１０３が変形することがある。特に巻筒体収納箱１００は、台所などの湿気の多いところで使用されることが多いため、水分を吸って変形しやすい。切断刃１０６のある蓋１０２が変形す

ると、フィルム１０８の切断が適正に行われず、フィルム１０８が裂けたりすることがある。また、巻筒体収納箱１００に指が引っ掛かりにくくいため、蓋１０２の開閉がし難く、蓋１０２を確実に開けずにフィルム１０８を引き出すことで切断刃１０６と接触し、フィルム１０８が裂けたり、蓋１０２を確実に閉めずにフィルム１０８を切断することでフィルム１０８が巻筒体１０７に巻き戻ったりすることがあり、使い難くなる。

[0005] そこで、巻筒体収納箱の蓋の変形を防止すべく、蓋を覆う蓋補強カバーが提案されている（特許文献２参照）。この蓋補強カバーは、巻筒体収納箱の蓋の表面に取り付けられ、蓋補強カバーを持って回転することにより、蓋が開閉される。この開閉の際、蓋補強カバーが巻筒体収納箱の蓋を保持している必要があるが、この保持は、蓋補強カバーの側面に舌状弾性体を形成し、この舌状弾性体をその内側の蓋の側面部に押し付けることによって行われている。

先行技術文献

特許文献

[0006] 特許文献１：日本国特開２００３－１６０１４１号公報

特許文献２：日本国特開２００４－３５２３５６号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0007] しかしながら、上述のように蓋補強カバーの舌状弾性体を蓋の側面部に押し付けて保持すると、蓋の側面部も内側の容器の側面部に押し付けられ、蓋の側面部が舌状弾性体と容器の側面部との間に挟まれて、蓋が開き難くなる。また、多数回の蓋の開閉により、舌状弾性体の押し付け力が徐々に弱くなり、蓋補強カバーが蓋から外れる恐れもある。

[0008] 本発明は、かかる点に鑑みてなされたものであり、巻筒体収納箱の蓋の開閉を容易にし、なおかつ多数回開閉しても巻筒体収納箱の蓋から外れることを防止できる、巻筒体収納箱の蓋カバー及び巻筒体収納装置を提供すること

をその目的とする。

課題を解決するための手段

- [0009] 上記目的を達成するための本発明は、フィルムが巻かれている巻筒体を収納する巻筒体収納箱の蓋に着脱可能な蓋カバーであって、前記蓋の上面部を覆う上板と、前記蓋の前面部を覆う前板と、前記蓋の両側の側面部を覆う一対の側板と、を有し、前記各側板には、当該側板から内側に突出し、前記蓋の側面部の下端面に係止可能な係止部が設けられている。
- [0010] 本発明によれば、蓋カバーの各側板の係止部を、蓋の側面部の下端面に係止することにより、蓋が蓋カバーに保持されるので、従来のように蓋の側面部が内側に押し付けられることがなく、蓋の開き易さを向上できる。また、多数回蓋が開閉されても蓋カバーが蓋から外れることを防止できる。
- [0011] 前記前板には、前方に突出し、左右方向に延びる突条部が形成されていてもよい。かかる場合、例えば親指を突条部に引っ掛けて蓋カバーを回動できるので、より小さな力で簡単に蓋を開閉できる。
- [0012] 前記突条部は、中央が凹んでいてもよい。かかる場合、例えば親指を突条部に引っ掛け易くなり、より簡単に蓋を開閉できる。
- [0013] 前記係止部は、前記側板の前後方向に沿って形成された水平上面を有していてもよい。かかる場合、係止部が蓋の側面部の水平の下端面に好適に係止される。
- [0014] 前記前板の下端部には、フィルムを切断する切断刃が形成されていてもよい。かかる場合、蓋カバーを、切断刃が取り付けられていない簡易的な巻筒体収納箱にも使用できる。
- [0015] 前記切断刃は、前記前板の下端部の一部に形成されていてもよい。かかる場合、切断刃によりフィルムに、切断する際の起点となる傷のみを形成できるので、フィルムの伝播によるカットを実現できる。かかる場合、フィルムのカット端面にノッチが入らなくなるので、フィルムの縦裂けを抑制できる。
- [0016] 前記切断刃は、前記前板の下端部の裏面に凹凸を形成することによって形

成されていてもよい。かかる場合、例えば使用時に指が切断刃に触れることを抑制できる。また、指が切断刃に触れても怪我をすることを抑制できる。

[0017] 前記前板には、蓋の切断刃を覆う刃カバーが設けられていてもよい。かかる場合、例えば使用時に指が蓋の切断刃に触れることを防止できる。

[0018] 前記各側板は、前記係止部より下方向に延長されていてもよい。かかる場合、巻筒体収納箱を安定して縦置き（側板を下にして立てた状態で置く）することができる。また、該各側板は、前記巻筒体収納箱の底面より下方向に延長されていてもよく、かかる場合、縦置きがより安定するとともに、横置き（上板を上にして横にした状態で置く）にした場合、巻筒体収納箱の底面が空中に浮いた状態になり、電子レンジの上などの高温になる場所に置いた場合にも内部のフィルムに熱が加わりにくく、フィルムの変質を抑制できる。

[0019] 前記前板は交換可能な構造になっていてもよい。かかる場合、前板に好みの形状や模様のもので選択できる。また、前板にフィルムの切断機能がある場合には、切断性能が劣ってきたときに前板部分のみを交換することができる。

[0020] 別の観点による本発明は、巻筒体収納箱と、前記巻筒体収納箱に取り付け可能な上述の巻筒体収納箱の蓋カバーと、を有する、巻筒体収納装置である。

発明の効果

[0021] 本発明によれば、蓋カバーによる巻筒体収納箱の蓋の開閉を容易にし、なおかつ多数回蓋を開閉しても巻筒体収納箱の蓋から蓋カバーが外れることを防止できる。

図面の簡単な説明

[0022] [図1]本実施の形態にかかる蓋カバーが巻筒体収納箱に装着された状態の斜視図である。

[図2]蓋カバーが巻筒体収納箱に装着される前の状態の斜視図である。

[図3]蓋カバーの後面図である。

[図4]蓋カバーの側板周辺の縦断面図である。

[図5]蓋カバーにより巻筒体収納箱の蓋を開放した状態を示す斜視図である。

[図6]切断刃を有する蓋カバーを示す前面図である。

[図7]前板の裏面に切断刃を有する蓋カバーを示す前面図である。

[図8]蓋カバーの前板の切断刃の凹凸を示す縦断面図である。

[図9]前板の下端部の一部に切断刃を有する蓋カバーを示す前面図である。

[図10]刃カバーを有する蓋カバーを示す斜視図である。

[図11]巻筒体収納箱の斜視図である。

[図12]係止部よりも下方に延長した側板を有する蓋カバーが巻筒体収納箱に装着された状態を示す蓋カバーの前面図である。

[図13]側板を延長した蓋カバーが装着された巻筒体収納箱を縦置きにした状態を示す説明図である。

[図14]筒巻体収納箱の底面より延長した側板を有する蓋カバーが巻筒体収納箱に装着された状態を示す蓋カバーの前面図である。

[図15]前板が交換可能な構造を有する蓋カバーを示す前面図である。

[図16]前板の前板本体と前板交換部の嵌め合い構造を示す断面図である。

発明を実施するための形態

[0023] 以下、図面を参照して、本発明の好ましい実施の形態について説明する。

図1は、巻筒体収納箱100に蓋カバー1が装着された巻筒体収納装置Aを示す斜視図である。図2は、巻筒体収納箱100に蓋カバー1が装着される前の状態を示す斜視図である。

[0024] 蓋カバー1は、例えば図1及び図2に示すように巻筒体収納箱100の蓋102に着脱自在である。蓋カバー1は、蓋102の上面部103を覆う略長方形状の上板10と、蓋102の前面部104を覆う略長方形状の前板11と、蓋102の両側の側面部105を覆う方形の一对の側板12を有している。図3に示すように蓋カバー1の後面側と底面側は開口している。

[0025] 図1及び図2に示すように上板10の後方端辺10aの長手方向（左右方向X）の中央には、円弧状の切り欠き20を形成してもよい。前板11は、

蓋 1 0 2 の切断刃 1 0 6 が露出するように蓋 1 0 2 の前面部 1 0 4 よりも上下方向の長さが短く形成されている。前板 1 1 の左右方向 X の中央には、指の引っ掛け部が形成されていることが好ましい。引っ掛け部としては、前方に突出し、なおかつ左右方向 X に延びる突条部 2 1 のようなものでもよく、指が入るような凹部が形成されていてもよい。例えば突条部 2 1 は、平面から見て波形状に形成され、左右方向 X の中央に凹み 2 1 a が形成されている。なお、この突条部 2 1 は、前板 1 の中央部のみに形成されていても左右方向 X 全体に形成されていてもよい。突条部 2 1 の突出長さは、例えば 2 0 m m 以下が好ましい。また、突条部 2 1 の形状は、平面から見て円弧状、四角状等など他の形状でもよいが、波形状の場合は指への引っ掛けかりが良く、力を加えやすいことから、蓋 1 0 2 の開閉をスムーズに行うことができ、より好ましい。

[0026] 図 3 に示すように各側板 1 2 の下端部には、内側に突出する係止部 2 2 が形成されている。係止部 2 2 は、例えば側板 1 2 の下端部から内側に側板 1 2 に対し直角に突出し、その上面には、水平上面 2 2 a が形成されている。側板 1 2 と係止部 2 2 とで L 字型を形成している。蓋カバー 1 が蓋 1 0 2 に装着された際、図 4 に示すように水平上面 2 2 a 上に蓋 1 0 2 の側面部 1 0 5 が配置される。これにより、係止部 2 2 が蓋 1 0 2 の側面部 1 0 5 の下端面に係止され、蓋カバー 1 が上方に回動されると、係止部 2 2 が蓋 1 0 2 の側面部 1 0 5 の下端面に引っ掛けかり、側面部 1 0 5 を持ち上げて蓋 1 0 2 が開放される。

[0027] 蓋カバー 1 は、巻筒体収納箱 1 0 0 よりも強度が高いものを用いて成型されている。蓋カバー 1 は、例えば適切な剛性と弾性を有する例えばプラスチック、アルミニウムなどを用いて成型される。プラスチックでは、例えば A B S、ポリスチレン、P C、アクリル樹脂、ポリプロピレン、ポリエチレン樹脂等が用いられ、その中でも剛性の高い樹脂である A B S、ポリスチレン、P C、アクリル樹脂等がより好ましく、公知の抗菌剤を添加しても良い。また、蓋カバー 1 は、着色や印刷によって意匠性を持たせても、透明で

あってもよい。透明の場合蓋カバー 1 を装着した状態であっても巻筒体収納箱 100 の表面の文字や絵が確認できる。

[0028] 次に、以上のように構成された蓋カバー 1 の使用方法の一例について説明する。まず、図 2 に示すように蓋カバー 1 が巻筒体収納箱 100 の前方側に配置され、蓋 102 の側面部 105 の下端面の下側に蓋カバー 1 の係止部 22 が入るように、蓋カバー 1 が蓋 102 に前方側から挿入されて装着される。これにより、図 1 に示すように蓋 102 の上面部 103、前面部 104 及び側面部 105 が蓋カバー 1 により覆われた状態となる。また、蓋 102 は、係止部 22 により蓋カバー 1 に係止されている。

[0029] 次に、親指を突条部 21 に引っ掛け手の平が切り欠き 20 近辺に位置するように蓋カバー 1 が握られ、図 5 に示すように蓋カバー 1 を回動させて蓋 102 が開けられる。続いて、巻筒体収納箱 100 内のフィルム 108 が所定量引き出される。次に、蓋カバー 1 により蓋 102 が閉じられ、フィルム 108 に張力をかけた状態で、切断刃 106 によってフィルム 108 が所定の長さに切断される。

[0030] このフィルム 108 の切断が多数回行われ、フィルム 108 が巻筒体 107 から無くなると、蓋カバー 1 が蓋 102 から取り外される。この際、装着時と逆方向に、蓋 102 の側面部 105 の下端面の下側から蓋カバー 1 の係止部 22 が抜けるように、蓋カバー 1 が蓋 102 の前方側に引き出されて取り外される。そして、蓋カバー 1 が新しいフィルム 108 の入った次の巻筒体収納箱 100 の蓋 102 に取り付けられる。

[0031] 以上の実施の形態によれば、蓋カバー 1 の各側板 12 の係止部 22 を、蓋 102 の側面部 105 の下端面に係止することにより、蓋 102 が蓋カバー 1 に保持されるので、従来のように蓋の側面部に押し付けられることがなく、蓋 102 の開き易さを向上できる。また、多数回蓋 102 が開閉されても蓋カバー 1 が蓋 102 から外れることを防止できる。

[0032] 前板 11 には、前方に突出し、左右方向 X に延びる突条部 21 が形成されているので、例えば親指を突条部 21 に引っ掛けて蓋カバー 1 を回動できる

。このため、より小さな力で簡単に蓋 102 を開閉できる。

[0033] 突条部 21 は、中央が凹んでいるので、例えば親指を突条部 21 に引っ掛け易くなる。また、親指が突条部 21 の中央に誘導されるので、蓋カバー 1 の中央を持って蓋カバー 1 の回動を行うことができる。よって、より小さな力で簡単に蓋 102 を開閉できる。

[0034] 係止部 22 は、側板 12 の前後方向に沿って形成された水平上面 22a を有しているので、係止部 22 が蓋 102 の側面部 105 の水平の下端面に好適に係止される。また、蓋カバー 1 を水平方向にスライドさせ、係止部 22 の水平上面 22a を蓋 102 の側面部 105 の下端面の下に出し入れすることにより、蓋カバー 1 の蓋 102 に対する着脱を好適に行うことができる。

[0035] 以上の実施の形態で記載した蓋カバー 1 において、図 6 に示すように前板 11 の下端部にフィルム 108 を切断する切断刃 30 が形成されていてもよい。かかる場合、前板 11 は、蓋 102 の前面部 104 の下端部よりも長く形成され、フィルム 108 の幅方向の全体を蓋カバー 1 の切断刃 30 により切断できるようにする。この例によれば、蓋カバー 1 を、切断刃が取り付けられていない簡易的な巻筒体収納箱にも使用することができる。

[0036] また、蓋カバー 1 の切断刃 30 は、金属製の切断刃を取り付けても、図 7 及び図 8 に示すように前板 11 の下端部の裏面 11a に凹凸 30a を形成することによって形成されていてもよい。凹凸 30a は、前板 11 の裏面 11a の下端部に直線的に連続的に形成される。かかる場合、切断刃 30 が裏面 11a にあるので、使用時に指が切断刃 30 に触れることを抑制できる。また、切断刃 30 が凹凸 30a であるので、指が触れても怪我をすることを抑制できる。

[0037] ここで、上記蓋カバー 1 の切断刃 30 は、図 9 に示すように前板 11 の下端部の一部にだけ形成されていてもよい。かかる場合、切断刃 30 によりフィルム 108 の切断開始の起点を作り、裂けの伝播によってフィルムを切断することができ、より軽い力でフィルム 108 を切断できる。また、伝播によるカットのため、フィルム 108 の切断端面にノッチが入らず、フィルム

１０８の縦裂けが防止できる。また、蓋カバー１の下端部の一部に切断刃３０を形成する場合、例えば下端部の縁形状が直線型やアーチ型（上に凸形状）の場合、両端部のみに切断刃３０を形成し、また、Ｖ字型（下に凸形状）の場合、Ｖ字の中央の先端部のみに切断刃を形成してもよい。

[0038] 以上の実施の形態で記載した蓋カバー１において、図１０に示すように前板１１に、蓋１０２の切断刃１０６を覆う刃カバー４０が設けられていてもよい。この刃カバー４０には、例えば可撓性のある柔軟なシート状のものが用いられ、前板１１の下端部付近に取り付けられている。通常時には切断刃１０６を覆い、フィルム１０の切断時にはフィルム１０８の引き出し角度に応じて曲がる。この例によれば、使用時に指が蓋１０２の切断刃１０６に触れることを防止できる。なお、この刃カバー４０は、シート状のものに限られず、他の構成のものであってもよい。例えば前板１１の下端部側を伸ばして、途中にヒンジ部を設けて屈曲可能にし、その屈曲部分を刃カバーとしてもよいし、前板１１の下端部付近を屈曲可能な薄さに成型して、その屈曲部分を刃カバーとしてもよい。

[0039] また、図１２に示すように各側板１２の下端部２３に係止部２２よりも下方向に延長して側板１２を大きくしてもよい。かかる場合、蓋カバー１を装着した際の巻筒体収納箱１００の側面側の段差が無くなり、図１３に示すように筒状体収納箱１００を安定して縦置きすることができる。これにより、キッチンの場所を取らず、狭い場所にも収納が可能になる。なお、この例では、側板１２の下端部２３と巻筒体収納箱１００の底面１１０が同じ位置になるようにしている。

[0040] また、図１４に示すように各側板１２の下端部２３を巻筒体収納箱１００の底面１１０よりも突出させるようにしてもよい。かかる場合、蓋カバー１を装着した巻筒体収納箱１００の縦置きがより安定するとともに、横置きにした場合、巻筒体収納箱１００の底面１１０が空中に浮いた状態になることで、電子レンジの上など高温な場所に置いた場合にも内部の巻筒体１０７に熱が加わりにくく、フィルムの変質を抑制できる。特に巻筒体収納箱１００

がラップフィルム収納箱の場合、内部のラップフィルムに熱が加わりにくくなることで、熱によるラップフィルムの引出力の上昇を抑制できる。

[0041] また、蓋カバー 1 の前板 11 は交換可能な構造を有していてもよい。かかる場合、例えば図 15 に示すように前板 11 が、例えば前板本体 50 と、当該前板本体 50 から取り外し可能な前板交換部 51 を有している。前板交換部 51 は、例えば前板 11 の下端部を含む方形に形成されて、前板本体 50 は、残りの部分となる略逆凹状に形成されている。前板本体 50 には、その内側縁部の三辺に沿って図 16 に示すような突条部 52 が形成され、前板交換部 51 には、その外側縁部の三辺（上面部及び側面部）に沿って、突条部 52 に嵌合する溝部 54 が形成されている。よって、図 15 に示すように前板交換部 51 を前板本体 50 に対し上下にスライドさせることによって、前板本体 50 に対し前板交換部 51 を着脱できる。かかる場合、前板 11 に好みの形状、模様のものを選択することができる。また、図 15 に示したように前板交換部 51 の下端に切断刃 30 がある場合には、例えばその切断性能が劣ってきた場合に前板交換部 51 のみを交換することができる。なお、この例のように前板 11 の一部を交換可能であってもよいし、前板 11 の全体を交換可能であってもよい。また、前板交換部 51（前板本体 50）の形状は他の形状であってもよい。また、取り外しの構造は、スライド式である必要はなく他の構造であってもよい。

[0042] 以上、添付図面を参照しながら本発明の好適な実施の形態について説明したが、本発明はかかる例に限定されない。当業者であれば、特許請求の範囲に記載された思想の範疇内において、各種の変更例または修正例に想到し得ることは明らかであり、それらについても当然に本発明の技術的範囲に属するものと了解される。

[0043] 例えば以上の実施の形態で記載した前板 11 の下端部の縁形状は、直線切り用又は中央切り用のいずれの切断刃形状にも対応できるように、直線型、アーチ型（上に凸形状）、V 字型（下に凸形状）でもよく、その他切断刃の形状に合わせて成型されていてもよい。

- [0044] また、係止部 2 2 の形状は、上記実施の形態のように水平板状に突出した形でなくてもよく、例えば水平に突出した後上方に湾曲、又は屈曲する形など他の形状であってもよい。本発明は、ラップフィルム、アルミホイル、クッキングペーパーに限られず、その他のフィルムが巻かれた巻筒体を収納する巻筒体収納箱の蓋カバーにも適用できる。

実施例

- [0045] 実施例及び比較例における測定方法及び評価方法は下記の通りである。

〈引出力〉

引出力は引出性の指標であり、数値が低いほど軽い力でフィルムを引き出すことができる。引出力は以下の方法により測定される。フィルム幅 30 cm に調整した紙管巻きラップフィルムをごくわずかな力で容易に回転するロール状治具にセットし、フィルムの端を引張試験機のロードセルに直結する幅 330 mm の治具に固定する。次いで、1000 mm/分の速度でフィルムを引き出した際に発生する応力の最大値を測定する。測定は 23℃-50% の恒温恒湿下で行われる。この測定は 10 回行い、その平均値を採用する。評価基準を次のようにした。

○ : 100 cN 未満

× : 100 cN 以上

- [0046] 実施例 1

サランラップ（旭化成ホームプロダクツ株式会社製：30 cm 幅×20 m 巻き）の巻筒体収納箱に、図 13 に示す側板 12 の下端部 23 までの長さ Y が 50 mm の蓋カバー 1 を装着し、100℃に温調した熱板の上に、側板 12 の下端部 23 が接触し巻筒体収納箱 100 の底面 110 が接触しないようにのせ、30 分間放置後、中のラップを取り出し、23℃-50% の恒温恒湿下に 30 分放置したのち、引出力を測定した。引出力は 50 cN と軽く引き出すことができた。

- [0047] 実施例 2

サランラップ（旭化成ホームプロダクツ株式会社製：30 cm 幅×20 m

巻き)の巻筒体収納箱のブリキ刃を取り外し、図9に示すような、前板の裏面の両端部に切断刃を有する蓋カバーを装着し、中のラップを30cm程度引き出し切断したところ、ラップの幅方向端部に傷が入り、これを起点としてラップの裂けが幅方向反対側の端部まで伝播し、軽い力でラップを切断することができた。

産業上の利用可能性

[0048] 本発明は、蓋カバーによる巻筒体収納箱の蓋の開閉を容易にし、なおかつ多数回蓋を開閉しても蓋カバーが巻筒体収納箱の蓋から外れることを防止する際に有用である。

符号の説明

- [0049] 1 蓋カバー
- 10 上板
 - 11 前板
 - 12 側板
 - 21 突条部
 - 22 係止部
 - 100 巻筒体収納箱
 - 101 容器
 - 102 蓋
 - 103 上面部
 - 104 前面部
 - 105 側面部
 - 106 切断刃
 - 107 巻筒体
 - 108 フィルム
 - X 左右方向
 - A 巻筒体収納装置

請求の範囲

- [請求項1] フィルムが巻かれている巻筒体を収納する巻筒体収納箱の蓋に着脱可能な蓋カバーであって、
- 前記蓋の上面部を覆う上板と、
- 前記蓋の前面部を覆う前板と、
- 前記蓋の両側の側面部を覆う一対の側板と、を有し、
- 前記各側板には、当該側板から内側に突出し、前記蓋の側面部の下端面に係止可能な係止部が設けられている、巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項2] 前記前板には、前方に突出し、左右方向に延びる突条部が形成されている、請求項1に記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項3] 前記突条部は、中央が凹んでいる、請求項2に記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項4] 前記係止部は、前記側板の前後方向に沿って形成された水平上面を有する、請求項1～3のいずれかに記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項5] 前記前板の下端部には、フィルムを切断する切断刃が形成されている、請求項1～4のいずれかに記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項6] 前記切断刃は、前記前板の下端部の一部に形成されている、請求項5に記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項7] 前記切断刃は、前記前板の下端部の裏面に凹凸を形成することによって形成されている、請求項5又は6に記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項8] 前記前板には、蓋の切断刃を覆う刃カバーが設けられている、請求項1～7のいずれかに記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項9] 前記各側板は、前記係止部より下方向に延長されている、請求項1～8のいずれかに記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。
- [請求項10] 前記各側板は、前記巻筒体収納箱の底面より下方向に延長されている、請求項9に記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。

[請求項11] 前記前板が交換可能な構造になっている、請求項1～10のいずれかに記載の巻筒体収納箱の蓋カバー。

[請求項12] 巻筒体収納箱と、
前記巻筒体収納箱に取り付け可能な、請求項1～11のいずれかに記載の巻筒体収納箱の蓋カバーと、を有する、巻筒体収納装置。